

無題

山城23回 野際照章

昭和四十三年四月、山城高等学校に入学当初は、馬代通りの校門をくぐると、植え込みがあり、その中に彫刻像が一体置いてありました。この像が私達のシンボリックな存在で、山城祭等でよくその姿を真似、出し物等に使っていました。校門から左（南側）へ歩くとテニスコートに出ます。馬代通りに沿ってクラブボックスもありました。テニスコートは二面あり、東側が硬式テニス部、西側がソフトテニス（当時は軟式庭球）部が使用していました。テニスコートで練習をしていると野球部のボールなどもよく飛び込み大変でした。グラウンドではバックネット側で野球部、西側でサッカー部、その間でラグビー部、また南端側で陸上部と、もう余す所なく使われ、それでいて大きな怪我もなかったのですから、今から思うと不思議なぐらいです。

またグラウンドの北東側には控え所、体育館、北西側にはプールがありました。当時のプールは循環装置などが立派な設備で

はなかったのか、いつも緑色したプールの水で授業を受けていたのを覚えています。控え所は外から土足のまま入れ、下（今風に言えばフロア）が石であったように記憶しています。ここで跳び箱の授業を受けていましたから、今から言えばこれも驚きです。その東側の体育館はちょうどテニスコートの北側になり、大きさはバスケットコート一面程度で、結構狭かったのを覚えていますが。授業の思いでは殆ど残っていませんが、当時指導を受けていた体育科の辻馨先生が「この体育館は昔、ミシンを置いて縫い物工場として使われていた。当時のミシン油が滲みて、他の体育館にはない『しなり』がフロアにあり、とても使いよい体育館だ」と言っておられたのを記憶しています。

思い起こせば、次ぎから次ぎへ、いくらでも山城高校のこと、また高校時代のことの頭をよぎります。今は、校門の位置も変わり、控え所、体育館はもちろんのこと、テニスコートの跡地に建てられた新体育館（当時の呼称）もなくなり、グラウンドの位置も変わり、私達が通学していたころとは、全く別の高等学校という感じがします。しかし、学校の姿、形は変われどもこの地で青春時代を過ごした者には、心の中に同じ血が流れていると思います。大先輩から現役生徒諸君まで、この繋がりを大切に、これからも心豊かで温かな人生を送り、チャンスあれば、次ぎは二百周年であいましょう！

修学旅行の思い出



熊本城



長崎おくんち

ごめんやす

同窓会訪問記 山城二十三回

リーガロイヤルホテル「桜の間」の会場に入ると、右手に懐かしい三十四年前のクラス別写真が展示されています。写真に見入る人達で、なかなか前に進まないようです。

同窓生七十九名、来賓の先生方八名で、記念写真の撮影に始まりました。

「ハイ、一、二、三」の合図に自動シャッターがうまく作動せず、大爆笑。三度も繰り返し、緊張もほぐれ、皆さんいい顔で写真におさまりました。

照明が落とされ、逝去者十一名への黙持。野際氏の發起人あいさつ、来賓あいさつは「シンペー」の愛称で親しまれた渡辺信平先生。成山氏の音頭で乾杯をして宴に入りました。立食形式で皆さん和気藹々の歓談となりました。

元NHKアナウンサーの小川さん（現フリーアナウンサー）のなめらかでハキハキした司会で会が進みました。

各クラス毎に舞台上がり、自己紹介、近況報告をされ、思い出の歌が披露されました。なかにはモーニング娘の「ラブレポリューション」を振り付けて披露されたクラスもありました。（ちよつと無理があつたかな？ ゴメンナサイ）

とどまることを知らないほどの盛会でした。校歌合唱。「フレ、フレ、山城」の応援で締めくくられました。

その後、ホテル地階に用意された二次会会場に大半が移動されました。